



主の 2015 年 4 月 5 日
第 88 号 イースター号

日本キリスト教団
泉ヶ丘教会

牧師 松永政和



〒590-0114
堺市南区榎塚台 1-1-5
TEL/FAX 072-291-9532
メール izumigaoka9532church@yahoo.co.jp

■ 礼拝・集会 ■

- ・ 主日礼拝(日)午前10時30分
- ・ 教会学校(日)午前9時
- ・ 聖書を学び祈る会(木)午前 10 時30分
- ・ キリスト教入門講座・家庭集会
- ・ マリア会・テモテ会、他

■ 教会標語 ■

『キリストを証する教会』
—手を携えて歩む—



復活のイエスに会う

ヨハネによる福音書二二章一〜十四節

牧師 松永 政和

イエス様が十字架に架かられてから六時間、十字架の上のイエス様は、「成し遂げられた」と言われ頭を垂れて息を引き取られました。金曜日の午後三時のことでした。遺体は十字架から降ろされ、だれもまだ葬られたことのない新しい墓に納められました。

そして金曜、土曜、日曜、と数えて三日目の朝早く、まだ暗いうちに墓を訪れた婦人たちは、そこに二つの驚きの出来事を見ます。一つは、墓の入り口をふさいでいた大きな石、彼女たちの力ではとうてい動かすことのできない石が取り除けられていたこと。そして、確かに納められたはずのイエス様の遺体が墓の中に無かったこと。この信じられないような出

来事を前に、動転した婦人たちは急いで、家の中で息をひそめている弟子たちの所に行き、そのことを告げます。でも弟子たちは信じられなかった。そのことよりも、もし見つければ自分たちも捕らえられて、イエス様同様どんな目に合わされるかわからない、そのことの方が気がかりだったので、家の戸に鍵をかけて中で震えていました。

そんな弱い弟子たちの真ん中に復活のイエス様が立たれ、「あなたたちに平安があるように」と言われました。そして、十字架に釘づけされた手を、槍で突かれたわき腹を見せられたのです。それはその日の夕方のことでした。「平安があるように」とは、ご自分をおいて逃げてしまっ

た弟子たちへの赦しのお言葉です。さらに、「わたしについて来なさい。そして、わたしがしたように、人々にしなさい」と言われるイエス様のお言葉を聞いてペトロや弟子たちは、初めてガリラヤ湖の岸辺でイエス様にお会いしたときのことを思い起こします。「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう。」とイエス様に召されて弟子になった時のことをです。ペトロたちの職業は、ガリラヤ湖で魚を獲る漁師でした。彼らは舟や網などその場においてイエス様の後に従います。

イエス様のお言葉を聞き、なさる業を見、救いの教えを受けて、彼らはイエス様をキリストと信じる弟子へと育てられていきます。その彼らにとって気がかりなことが、「捕らえられ、十字架に架けられ死に、復活する」と言われたイエス様のお言葉です。そしてその通りになりました。捕らえられ十字架に向かわれるイエス様を見て、弟子たちは逃げ出し、家の中に閉じこもっていたのです。なぜ、あの時、イエス様が三度も、ご自分の十字架と復活を語られていたときに分からなかったのだら

うか。そんな思いにある弟子たちに復活の主イエスは、もう一度「あなたがたに平安があるように」と言われました。このお言葉を受けて弟子たちは、「人間をとる漁師になる」。すなわち「キリストの救いの福音を人々に宣べ伝えるように」と言われたイエス様のお言葉に心を奮い立たせます。

こうして復活の主イエスにお会いした弟子たちは、出かけます。行先は、彼らの生活の場であるガリラヤ



湖周辺です。人間を獲る漁師にふさわしい所です。そこで七人の弟子たちは揃って舟に乗り漁りに出かけますが一匹も獲れなかった。がっかりして明け方、湖岸に戻ってくる途中で、岸に立つイエス様に気付きます。そしてイエス様の「船の右側に網を打ちなさい」とのお言葉に従って網を打ちますと、一五三匹もの魚が獲れたのです。陸に上がって見るとイエス様によって食事の準備がされていました。そこに弟子たちによって今

獲れた魚が加えられ、主イエスを中心にパンと魚の食事がなされたのです。

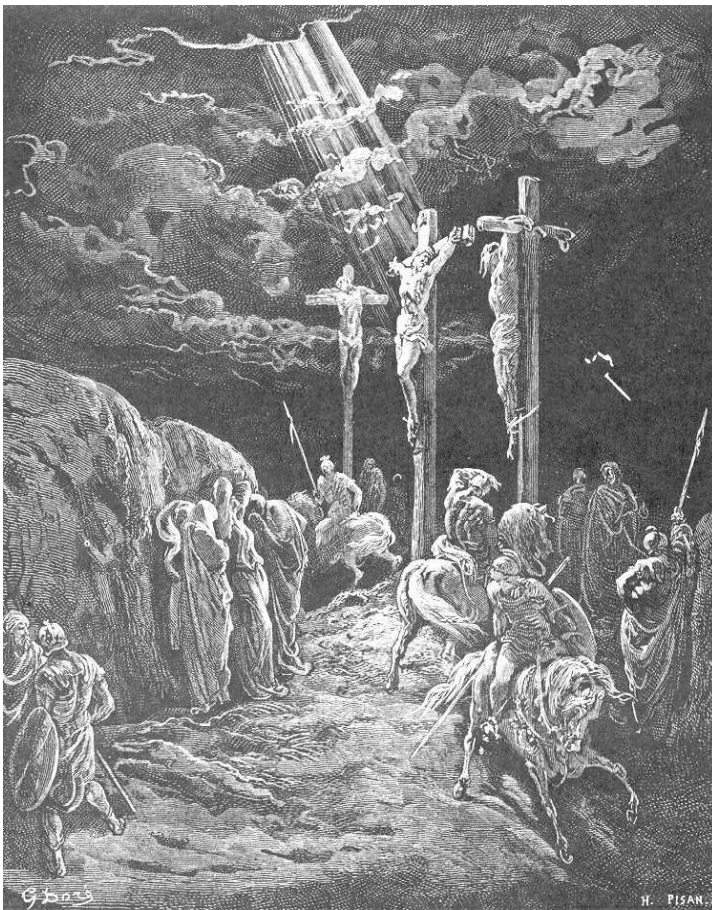
七人の弟子たちが乗り込む舟は教会を指しています。神さまの救いの福音を語るのは、教会の第一の務めです。そして教会に乗っている者たちの務めです。しかしプロである漁師でも魚一匹獲れないことがあります。人間の経験や知恵だけで、人をイエス様の所に連れてくることは難しいです。信じる者にすることはもっと難しいです。ところがイエス様のお言葉によって「キリストの救いの福音」という網を使いますとき、考えられないようなことが起ります。

一五三匹もの魚。当時この世界にいる魚は一五三種類と考えられていました。それは世界中の人々を指すたとえです。世界という海に打たれた「救いの福音」の網は、全世界の人たちを獲らえても破れませんし、強くしなやかなものです。私たちは、この網にかかって平安を得る一匹の魚となることができますし、また復活の主イエスと共に、この網を使う「人間をとる漁師」になることもできるのです。

復活なさったイエス様は、この時の弟子たちばかりでなく、その後も多くの人にご自分を現されています。そしてそれは今も、私たちも復活されたイエス様に出会うことができますのです。嘘だと思ったら教会に来てごらん下さい。そこで、「見ないのに信じる人は幸いである」とおっしゃる甦りのイエス様のお姿を見ることができましょう。わたしのた

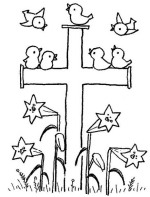
めに十字架に架かられ、死んで復活された主イエス・キリストにお会いできるのです。

Ω



春

内藤 順子



イースターおめでとつごいませす
イースターの朝、神を賛美します。

1 し の め に と り う た え り

朝風に鐘ひびけり

いのちのきみはこの日に

よみがえりぬ

2 と り 絶 え ず 啼 け あ し た に

鐘常に鳴れこの朝

のどけき春にわがきみ

よみがえりぬ

3 降 れ よ 春 雨 し ず け く

山のさくらもほころびん

はる立ちかえりわがきみ

よみがえりぬ

(旧)ごどもさんびか

56



初めて覚えたイースターの讚美歌です。祖母が教えてくれました。言葉が難しく丸暗記。でも歌うと何か嬉しくなる。何年もかかって少しずつ分かったような気がします。いつもイースターの朝、口ずさみます。いつの頃か定かではありませんが赤や黄色、みどりのセロファン紙に包まれたイースターエッグが頂けるようになりました。楽しみの一つとなりました。(当時卵は貴重なもの。箱におがく

ずを入れてたまごを割れないように大切に病気見舞いを持って行きます。とても喜ばれました。)家に帰ってたまごを頂き、セロファン紙はしわを伸ばして机の引き出しに何年もためていたものです。イースターの朝、今年も赤とか、緑と、決めて出かけたものでした。それに母はこの日新しいワンピースをきてくれます。当時の写真は白黒ですが、写真を見れば、今でも洋服の色はおぼえています。大人達にとって暗い時代が終わって、こんなことも出来るようになったとの喜びの一つだったのかも知れません。

イースターの朝、新しいワンピースを着て、駅までの道をおばあちゃんと讚美歌を歌ってイースター礼拝へ、小学生の私のうれしい春のおとすれです。

泉ヶ丘教会では教会学校の先生方が教会の玄関ドアやフロアーにたまご、かわいいひよこのシールや絵でイースターの飾りをしてくださいます。今年は…?とても楽しみです。

沢山のイースターエッグも準備して下さいます。近年はデコレーションされたたまごは直ぐには食べられなくて暫く食卓に飾ったり写真を撮ったりし

てからいただきます。いつも有難うございます。

イースター礼拝は教会学校の子供たちとの合同礼拝です。2、3歳の小さい子供から90歳を超えた大先輩、声を合わせ、心を合わせての賛美の歌は喜びで震えます

4月。新しい歩みを始めます。神様の祝福が豊かにありますように。 Ω



ドイツの祈り

二つの祈り

主よ、毎日は私達の手の中で消えて行きます。
 しかし、あなたはとどまっておられます。
 昨日も今日も明日も、あなたは変わることありません。
 永遠の昔から私達のことを知っておられ、
 私たちの未来はあなたの手の中にあります。
 あなたが私達に望んでおられる全てのことのために、用意させてください。
 そのためにも私達にあなたへの信頼を強くしてください。



良い死を求めて

主よ、あなたが私を愛して下さっていること、私の死が命と全く同じにあなたの手の中にあることを知っています。
 あなたが私をお招きになった時のために、日々用意できますように助けてください。
 あなたが全てを良きに変えてくださる希望の中で、あなたと和解し死なせてください。
 主よ、御心がなりますように。

邦訳：長澤 真理



教育伝道部にて

前川 直美

私は、学生時代、クリスチャンの友達の“みんなと違う佇まい”に惹かれ、学校の礼拝で歌われる“賛美歌”が好きで教会に通う様になりました。だから「伝道はそう言うもの、声高に語るものではない」と思っていました。

でも「全ての人に福音を宣べ伝えなさい」と言われ、「このままではいけない」と言われると何かしなくてはいけない思いに駆られてしまいましたか？

教会に、一歩でも足を踏み入れてもらうにはどうしたらいいだろう？ 駅でピラを配ったり、家庭を訪問したり…。

うーんなんか違う。と言うか、私

には出来ない。受洗してから約6年、教育伝道部に属してそんなことをグルグル考える日々でした。

今私が思っていることは、まず自分が神様を見あげてしっかり立つこと。

求道者の方に自分の信仰を優しい言葉で、(つまり日本語に無い概念を日本語で)伝えられる様にすること。私が昔教会で安らいだ様に、初めての方にもくつろげる場所にする。奉仕や集会を楽しいものにする。そして教育伝道部で考えたことを、みんなで共有し、一緒に考えることです。

教育伝道部で輪読している「それゆけ伝道」に、心に残る文が有りました。

「福音書は四つではなく五つあるのだ」マタイ・マルコ・ルカ・ヨハネに並んであなたの福音書があるということでしょう。各人の体験、喜びと涙で綴る福音書。信仰告白としての五番目の福音書をこそ人々は読みたがっているのかも知れません。」

みんなで、「私の福音書」を書きませんか？





どんでん返し

斉藤 一実

我が家にひと先早くイースターが訪れました。浪人していた息子の大学合格発表があったのです。

前期の試験に失敗し、後期の試験も「全く受かる気がしない」と意気消沈。滑り止めの大学は合格し入学金は支払ったものの、必要書類を期日までに提出するのを見落としていたことに気づいた矢先でした。真っ暗闇でした。精根尽きはて、もう一年チャレンジするなんて、本人も家族も全く考えられない状況でした。

この一年間、神さまがふさわしい道を備えてくださっていることを信じ、「どうか備えてくださっている道を手探りでいけますように」と祈って来たのに、神さまは道を示されないではないか、



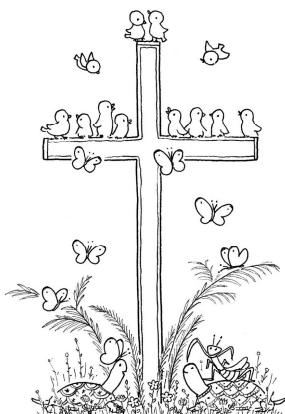
こんなに息子が苦しんでいるのに神さまは助けてくれないんだ、とさえ思ってしまったっていました。親として、苦しんでいる息子に何もしてあげられない無力さを感じつつ、ただ壊れていく息子の姿を見守るしかないのでしょか。

しかし、どんでん返しが起こったのです。神さまは後期の試験の合格通知を下さいました。真っ暗闇だと思っていたけれど、ちゃんと道を備えてくださっていたのですね。ありがとうございます。

「神は真実な方です。試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えてくださいます。(一)コリント10:13」

イエスさま、心がふさぎ、疑ったりしてごめんなさい。こんな弱い私のために十字架にかかってくださったのでありがとございます。そして暗闇から復活して下さりありがとうございます。どうかいつでも自分の心の扉を開けて、神さまが備えてくださっている光を見失うことのないようにしてください。今春から一人暮らしをする息子へ。もう駄目だ、と思うことがこれからも何度もあるでしょうが、イエスさまはどんな時でもそばにいて今回のように必ず助けてくれます。そのことを忘れないでね。

Ω



わたしが与えろ水を飲む者は
決して渴かない。
わたしが与えろ水は
その人の内で泉となり、
永遠の命に至る水がわき出る。

ヨハネによる福音書四・十四

いづみ

■ 書に寄せて ■

今から五十五年前、あるクリスマス
の夫婦にひとりの女の子が
生まれた。敬虔なクリスチャンか
どうかはわからないけれど、牧師
先生に「名前をつけてください」と
頼んだ。牧師先生は、その赤ちゃ
んにひとつの名前をつけた。
四十数年後、立派な中年となっ
たその女の子は、母親から「あな
たの名前は、ここからとったのよ」と、
この聖句を教えられた。

辺見 いずみ





素敵なお寄稿は教会学校のまなみちゃん（上）と、
みなみちゃん（下）からです。





「物語る」教会へ

岸本 眞

先日公開された「サン・オブ・ゴッド」という映画を観てきました。さすがにキリスト教ど真ん中、イエスの生涯と十字架と復活のど真ん中をテーマにした映画だけあって、世間ではあまり関心がないのか空席が目立ちましたが、それはそれで映画館に入ってくる人たちは何やらお互いをきよきよと見直し、あなただもクリスチャンでしょうねえ？という目配せを感じました。

比較的最近に観た「パツシヨーン」最後の誘惑、「ノア」約束の舟、「神は死んだのか」など、それぞれにやはり映画興行ですから一般観客を意識せざるをえない作り方なのでしようが、反面どの作品にも、私には映画の原作者や監督の思いの中に「神

様、答えて下さい！」と叫んでいる声が聞こえるように思えてなりませんでした。そんな感想を持ったのは、私は若い頃に小説家の遠藤周作の「沈黙」や「死海のほとり」、「イエスの生涯」、「キリストの誕生」などの一世を風靡した一連の遠藤らしいキリスト教信仰に対峙する作品群に没頭した頃があったことと関係していると思うだと、映画を観ながら青春時代を思い返していました。

「答えて下さらない神」。社会や人間関係に家庭に、そして信仰に真正面から向き合うほどに、祈っても祈っても答えて下さらない神様に向き合わされることがあります。その迷いや悩みに対して、他人事として神の不在や神否定でもむしろおかしく時にニヒルに説き伏せたがる世俗

だけではなく、哲学者や脳科学者や神学者までもいます。

そんなとき、私にはイエス様の十字架上での言葉「エリ・エリ・レマ・サバクタン」（わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか）（注1）がいつも浮かんできます。イエス様も十字架上の死闘の中で、答えて下さらない神様に向かって、肉体を持った私たちと同じ人間人としての苦しみや神様から見捨てられる絶望までも吐露されたのではないかと思えます。

「答えない神様は、語らない神様なのか？」その答えはイエス様の十字架の上での最期の言葉にあると思えます。

「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます。」（注2）

イエス様は、死という神様の支配から見捨てられる痛みと絶望を人と



沈黙
遠藤周作

新潮文庫



(<http://blogs.yahoo.co.jp/sirokuma6102000/54217290.html>)

してどこまでもその身に感じながら、けれど最期の最期に、燃え尽きようとしている命を賭して、自らを神様の御心に委ねられたのでしよう。

私は学生時代に読んだ小説「沈黙」の最後で、作者は自分の信仰を通じて「語らない神」がこう語ったと書いていたことに強い衝撃を受けました。

「私は沈黙していたのではない。(おまえと)一緒に苦しんでいた」と。おまえはほふり場に引かれる小

羊のように(注3)黙って十字架へと歩いて行ったイエス・キリストが、誰と一緒に苦しみ、何を成し遂げたのかを知っているだろうと。

聖書は神様が人を通じて語らせた命の書ですから、信仰と小説や映画との軽々な結びつけは慎まねばなりません。私は喜びのイースターを迎えたこの時に「語って下さない」と悲嘆していた頃のことを、映画のシーンにもあった裏切りのユダと共に撰った最後の晩餐、ゲッセマネでの孤独の祈り、十字架を背負わされて石畳を這う主、そして復活されて弟子たちの前に現れた主と、映画の中の数々のシーンと聖書で語られる数々のエピソードを照らし合わせていました。

かつて祈っても答えてくれない神への信仰に失望しかけていたさなかに、主は「私は神の子の受肉と犠牲を通じてあなたたちに語っただろう。あなたには聞こえなかったかい。おまえには届かなかったのかい。そんなおまえのためにこそ十字架の犠牲の愛が必要だったんだよ」と、気がつくほど山ほど神様が語りかけて下さっていることを礼拝を通じて知ら

されていきました。

弟子たちが十字架の犠牲の愛が自分たちのためにあったことを知るのには、まだそのあと。復活の主が、彼らの前に十字架の釘の痕が残された手を示して現れて下さらなければ「語らなかつた神様」への貧しい信仰者が終わっていたのでしよう。

東京神学大学の芳賀力学長が「物語る教会」でこう書かれています。

「イエスの受難と復活の後、最初の弟子たちが「福音」を語り始めた時、彼らは自分たちが力ある「新しい言葉」を語っているのだという実感に満たされていた。彼らは、イエスの名によって語る福音が、古い死の世界を更新し、神の国の曙光をもたらす終末論的言語であると理解し



Where they crucified him, and two other with him, on either side one, and Jesus in the middle. Luke 24:18

